図書館で解決！？ 第20号

図書館で調べ物をしてみませんか？

堺市立図書館
平成22(2010)年8月10日

「昔のくらし、昔のあそび」について調べたい

「昔のくらし、昔のあそび」について

親子の会話で、或いは同世代の人とのおしゃべりの中で「昔はこんな服を着ていたよ」とか、「こんな遊びがはやったね」などの会話が交わされる事はありませんか。

また高齢者の方が、昔の生活道具や写真などを見て、色々なことを思い出し、昔のことを語ることによって生き生きとしてくる、このことを、認知症の予防や治療に役立てる「回想法」 という取組みも注目されています。

ここでは「昔のくらし、昔のあそび」について書かれた本を紹介しました。

これらの本を読んだり見たりすることによって、今まで知らなかった昔のことを勉強したり、懐かしく思い出したり、また、異なる世代間で交流するきっかけにしてみませんか？

おもに、日本十進分類法の「382」(風俗史．民俗誌.)「383」(衣食住の習俗)「384」(社会・家庭生活の習俗)・・・と民俗学の方面から資料を紹介しましたが、その他の分野の本も一部載せています。

読みたい本が見つかったら、それらの本と共に、ひとときタイムスリップをお楽しみください！

昔のくらしについて調べる

◇ くらしあれこれについての本は

まずはおおまかに、「昔のくらしについて知りたい」と思った時、このような本はいかがでしょうか？

『暮らしの中の民俗学』 全3冊 ① 一日 ② 一年 ③ 一生
吉川弘文館 2003 382.1/ク

「人の暮らし方」を「一日」、「一年」、「一生」という時間の単位で区分し、その各々の中で、日本人のくらしについて考えるというユニークな切り口の本。

『日本人の暮らし 20世紀生活博物館』 柏木 博 他／編
講談社 2000 382.1/ニ

20世紀の100年は、日本人の暮らしが大きく劇的に変わった時代。この時代を生きた「ふつうの人」の「ふつうの生活」について書かれた本。30人以上もの様々な分野の専門家によって、執筆、編集されている。

◇ 衣・食・住に絞って調べてみると

昔の暮らしの中でも、特に服装について、食生活について、あるいは住まいについて知りたい時、書名の中に「衣・食・住」に関連する言葉を探すのもよいでしょう。

『十二単から現代のきものへ』 中路 信義／著 源流社 1982 383.1/ナ

日本人の民族衣装である「きもの」について、美しいカラー写真とともに説明。神代(かみよ)からの日本のきものの流れがよくわかる。

『洋裁の時代 日本人の衣服革命』 小泉 和子／編著 OM出版 2004 383.1/コ

第二次世界大戦後、日常に着る衣服は洋服が当たり前となった。和服から洋服への変化の過程について書かれている本。昔懐かしい洋服の写真が多数載っている。

『新編 十代に何を食べたか』 平凡社＋未来社／編 平凡社 2004 383.8/シ

大正から平成に十代を過ごした世代の違う人たちが、十代の時に食べたものについて語る。著者は茶道家元、作家、詩人、栄養士など様々な分野で活躍する39人。

『日本の食生活全集 27 聞き書 大阪の食事』
「日本の食生活全集 大阪」編集委員会 農山漁村文化協会 1991 383.8/ニ

大阪がふるさとである人にとって、懐かしいおなじみの食事が載っている。一方、同じ大阪の中でも、地域や職業によって違う習慣や食べ物があったことがわかる、新たな発見のある本。

『図説 日本住宅の歴史』 平井 聖／著 学芸出版社 1980 383.9/ヒ

先史時代、古代・中世から近現代までの住まいについて、豊富な図面、写真を駆使して解説している。支配階級、庶民、それぞれの住まいの変遷についてよくわかる。

『写真でみる 民家大事典』 日本民俗建築学会／編 柏書房 2005 383.9/シ

伝統的民家を豊富な写真で解説した書。民家の性格から生活感のある写真が多数掲載されている。建物の形と暮らし、地方別の民家の特色についての二部構成からなる。巻末には、見学することのできる日本、韓国、ヨーロッパの民家園(資料館、民家村、博物館など)の一覧あり。〔貸出できない本です〕

堺市立図書館一覧

中央図書館
堺区大仙中町 18-1
〒590-0801　TEL244-3811

堺市駅前分館
堺区田出井町 1-1-300
〒590-0014　TEL222-0140

中図書館
中区深井清水町 1426
〒599-8273　TEL270-8140

東百舌鳥分館
中区土塔町 2363-23
〒599-8234　TEL234-9600

東図書館
東区北野田 1077
〒599-8123　TEL235-1345

初芝分館
東区野尻町 221-4
〒599-8116　TEL286-0071

西図書館
西区鳳南町４丁 444-1
〒593-8325　TEL271-2032

南図書館
南区茶山１丁 7-1
〒590-0115　TEL294-0123

栂分館
南区桃山台２丁 1-2
〒590-0141　TEL296-0025

美木多分館
南区鴨谷台２丁 4-1
〒590-0138　TEL296-2111

北図書館
北区新金岡町５丁 1-4
〒591-8021　TEL258-6850

美原図書館
美原区黒山 167-14
〒587-0002　TEL369-1166

人権ふれあいセンター図書ホール
堺区協和町２丁 61
〒590-0822　TEL245-2534

青少年センター図書室
堺区柳之町西１丁３－１９
〒590-0930　TEL228-6331

編集・発行:
平成22年8月10日
堺市立中央図書館
〒590-0801
堺市堺区大仙中町 18-1
Tel:072-244-3811
Fax:072-244-3321

◇ 時代別に調べてみる

ある時代にスポットをあてて調べる場合、例えば、次のような本があります。

『ビジュアル・ワイド　明治時代館』 小学館　2005　L/210.6/ヒ
「明治」がどういう時代であったのか、歴史、文化、人々の暮らしなどのすべてにわたって解説。多数の写真、図を使って色鮮やかに時代を再現している。

『子供たちの大正時代』　古島　敏雄／著　平凡社　1997　384.5/フ
著者個人の記憶を元に書かれた本。「四季」「遊び」「家、学校、町」の3つの章に分かれている。大正期の実生活を示す資料が乏しい中、歴史の専門家による丁寧な時代の振り返りは貴重な資料といえる。

『昭和こども図鑑』　奥成　達／文　ながた　はるみ／絵　ポプラ社　2001 384.5/オ
子ども目線で見た、昭和20年代、30年代、40年代の子どもの暮らしと、それを彩る道具、世相、遊びについて書かれ、描かれている。昭和の時期に子ども時代を過ごした人にとっては、懐かしさを感じる一冊。

『キャラメルの値段』　市橋　芳則／著　河出書房新社　2002　337.82/イ
この本の副題は「昭和30年代・10円玉で買えたもの」である。昭和30　　年代の物の値段を軸にして、多数の写真とともに、「昭和」という時代をふりかえる。

昔のあそびについて調べる

「昔のあそび」は、実際にやって見せてもらい、そのあと自分でやってみて、初めてその面白さや奥深さがわかるのかもしれません。しかし、本で追体験することも可能です。以下に参考になる本を紹介します。子どもの本のコーナーにある本もあります。

『こども遊び大全』　遠藤　ケイ／絵と文　新宿書房　2001 384.5/エ
男の子編、女の子編に分けて、なつかしの昭和児童遊戯を紹介している。著者が自分の子ども時代の記憶を辿りつつ著(あらわ)した総手書きの書。

『ふるさとあそびの事典』　東陽出版　1976　384.5/フ
あそびを「戸外」「室内」「自然」「行事」と大きく四つに分類し、紹介している。単に遊び方について書かれているだけでなく、その由来や歴史にもふれているのが特徴。

『たのしい手づくりあそび全書』　小林　佳代他／編　東陽出版　1993　384.5/タ
工作あそび、草花あそび、折り紙あそびと大きく3つにわけた構成となっている。オリジナルの手づくりおもちゃも紹介。さし絵が豊富でわかりやすい。

訪ねてみませんか？

「大阪市立住まいのミュージアム　大阪くらしの今昔館」（大阪市）
http://house.sumai.city.osaka.jp/museum/frame/0_frame.html
日本で最初に開館した住まい専門の博物館。江戸時代後期から戦後にかけての住居に関する資料や模型を展示。随時、イベントや企画展も開催されている。

「日本民家集落博物館」（豊中市服部緑地内）
http://www.occh.or.jp/minka/#top
日本各地の代表的な民家を移築復元し、関連民具と共に展示している野外博物館。

「日本玩具博物館」（兵庫県姫路市）
http://www.japan-toy-museum.org/
個人運営であるが、日本を代表する玩具博物館として知られている。日本の郷土玩具、海外145カ国の玩具や人形など8万点余りの資料を所蔵・展示している。